今月の読み物

巨樹・巨木シリーズ37　愛媛県シリーズ-2

細田木材工業株式会社
顧 問　　細 田 安 治

楽しい巨樹・巨木探訪、愛媛県シリーズも２回目に入る。今号では神社にまつわるスギを二つの地域から選んだ。次にあまり聞いたことのない奇木、珍木に属するであろうイスノキ、末尾の「締め」として力強いケヤキを選んだ。どの木もそれぞれ歴史をもち力強き個性が感じられる。資料提供者のＵ氏の足跡を辿りながらご紹介していく。

写真番号１樹番号４　新宮神社の三本スギ

樹齢推定360年、樹周10.7/8.1m、樹高55m、50m　愛媛県松山市福見川町　松山市指定天然記念物

＊松山市のホームページより

三本杉としているが、実体は二株である。一株は、地上１ｍ余から分かれて二本となり、胸高幹周は約11mと８ｍである。当初は三本が独立していたが、成長過程で二株が一株になったのであろう。枝分かれした樹高は55mと50mで、樹齢は約360年と推定されている。この杉を遠くから眺めると、まことに雄大壮観、また近づいて見上げれば、その頂きは天空に迫っているような迫力である。　愛媛県では一番の大木である。



写真１　新宮神社の三本スギ

＜著者のつぶやき＞

今月の冒頭の巨樹は、非常に大きい。50mと55mと、てっぺんまでとても見ることができない。このスギからは、新宮神社と共に歴史を重ねてきたという威厳を感じる。

高知県大豊町の樹高65m「杉の大杉」（国指定特別天然記念物）と並び、四国で最大級のスギである。

写真番号２樹番号４－２　薬師寺のイスノキ

樹齢推定300年、樹周3.9m、樹高９ｍ　愛媛県松山市泉町122薬師寺　松山市指定天然記念物

＊松山市のホームページと案内板を参照して

イスノキとは、和名イスノキ、別名ヒョンノキ、ユスノキ、ユシノキと言われるマンサク科の常緑高木、主として四国、九州、南西諸島に分布している。イスノキのなかでもこれほどの大木は珍しい。

別名ヒョンノキと言われる語源は、二つある。

この木の葉には虫コブができる。虫コブの中の幼虫が成虫になって出た後の穴に風が当たるとヒョウヒョウと鳴る。また子ども達がそのコブを笛のように吹くとヒョウ、ヒョウと鳴る音色に由来するとい

うものである。

コブをつくる虫は２種類いる。イスオオムネアブラムシ、またはイスコムネアブラムシが葉に寄生し、葉が異常発育するのが原因とされている。イスオオムネアブラムシの虫コブは小さなイチジクの実、イスコムネアブラムシの虫コブは大豆ぐらいの大きさになる。

イスノキの材質は木目が細かく水に強くしかも堅いことから、木材としての用途は家具材や水中の梯子（はしご）や外部の柵などに使われている。

＜筆者のつぶやき＞

イスノキとは、「もくざいや」を自認する筆者が恥ずかしながら初めて耳にした木である。問屋組合さんに頼んで、標本の写真をいただき、掲載させてもらった。

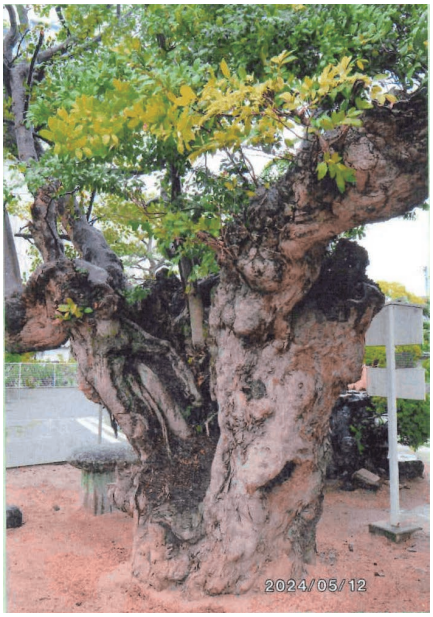


写真２　薬師寺のイスノキ

イスノキは、気候温暖な四国、九州に多いとの事である。ネットで調べると、水中梯子など貴重な用途が紹介されていた。日本の木の中で、最も重い木ということだ。それで腐りにくい。

軟らかい木質の木は雨に打たれると水分を含み、お陽さまに照らされると水分を蒸発させる。水分の移動の繰り返し、つまり濡らされて乾かされるので、表面が割れ、割れ目に腐朽菌が入り込み腐ってくる。痛んでくる。こうして軟らかい木は腐りやすいのである。

ここでのイスノキは、木目が細かく、しかも堅いので水も吸わず、吸わなければお日様に照らされても、内部に水分が少ないので蒸発割れが少ない。割れなければ腐朽菌も入る余地がない。よって腐りにくいことになる。オヤオヤ釈迦に説法をしてしまった、失礼しました。

ネットでは、潮の干満がある河川や海岸の岸壁の梯子の紹介があったのが面白い。今はステンレスになっているが、木の梯子は情緒があって良いものだ。

このイスノキの用途として考えられるのは、船の部材だろう。船の甲板、木造船のかい、竜骨、そのほか、船頭さんが漕ぐ櫂のつなぎ目など。木の橋はどうだろう。しかしこれらに使われていないのを見ると、イスノキは数が少なく、供給が間に合わないので、使われなかったのではないか。また、切削などの加工が難しかったこともその理由ではないか。

知名度が低くマイナーの木だが、珍木としては、小結か関脇ぐらいの地位ではないか？？？？勝手な想像だが、これらの想像も楽しいものだ。


イスノキの標本

松山市出身の正岡子規が療養中に薬師寺を訪れてこのヒョンノキの句を詠んでいる。

「我見しより　久しきひょんの　茂哉　」

句を詠んだ当初は「ひょんの実哉」としていたが、のちに実ではなく「葉」だとわかり、「茂哉」とし、夏の句としたという。

残念ながら、写真ではコブは確認できない。

写真番号３樹番号６　大師の大スギ

樹齢伝承400年、樹周3.5m、樹高23m　愛媛県伊予郡砥部町玉谷

大スギの根元には、「大杉は樹齢千年を迎え大師お加持の霊木と伝う」書かれた立て札がある。

＜筆者のつぶやき＞

巨樹探訪者Ｕ氏の「大師の大杉」とある写真は二枚あり、「大師の大スギ」は二本であると思われる。というのも、ネットで調べても、この「大師の大スギ」に関する情報が見つけられず、確認できなかったからである。この二本は全く違う表情を持っている。この表情から思うことを述べたい。

スギとも思えないゴツゴツしたコブだらけのスギは400年の永きにわたり大自然の過酷な風雪を受け耐え忍び、苦難の歴史がこのスギの巨樹の表情からうかがい知ることが出来るのではないか。

もう一本の素直なスギは、強い力で領民を守ることが出来た喜びの顔が素直に表れているのではないか。御大師様の尊いご利益を受けた姿に見える。





写真３　大師の大スギ

写真番号４樹番号８　広瀬神社のイチイガシ

樹齢伝承1000年以上、樹周6.7m、樹高30m　愛媛県喜多郡内子町本川　愛媛県指定天然記念物

＊愛媛県ホームページより

イチイガシ（一位樫）はブナ科コナラ属の常緑高木。山地に生える。中国名は赤皮。

このイチイガシの巨木は地上約３メートルのところで２つの大きな幹（大枝）に分かれている。外見からはわかりにくいが、幹の根元には三角形の開口部があり、内部はウロ（空洞）になっている。小学生が20人ほど入れるほどの大きなウロとなっている。

樹齢を重ねた今もなお、木の勢いは衰えることなく、素晴らしい容姿と風格を誇っている。

＜筆者のつぶやき＞

樹齢1000年越えているとはとても思えないほど確りした姿で立ちはだかっている。しかも主幹の根元から大きく枝分れし、更に大きな枝が、両手を広げたように左右に伸びている。加えて樹幹全体に青ゴ

ケをはりつけ人間で言えば働き盛りを思わせるような力強さだ。このイチイガシは壮年期の巨樹ではないか？？？

広瀬神社の境内には、このイチイガシのほかに次に紹介する「ケヤキの大木二株」もあり、計三株がともに県の天然記念物に指定されている。



写真４　広瀬神社のイチイガシ

写真番号５樹番号７　広瀬神社のケヤキ二株

樹齢推定1000年、樹周11～13m、樹高30～40m　愛媛県喜多郡内子町本川　愛媛県指定天然記念物

＜筆者のつぶやき＞

同じ広瀬神社境内には樹齢1000年を越える２本のケヤキがある。

そのうちの１本は５月木の芽時を受けて青葉が元気よくいっぱいに育っている。このＵ氏の写真からも若葉の香りがしてくるような元気の良さだ。樹齢1000年の巨木とは思えぬほどの勢いに満ち溢れている。

しかしもう１本のケヤキはかなりの小ぶりで、地上３ｍほどから二股に分かれているが、一方は切り取られており、片腕をとられ痛ましく弱々しい感じがする。

このように全然異なる２本のケヤキが「二株の巨木」と呼ぶには違和感を覚えた。気になる所であり残念なことだ。

続く



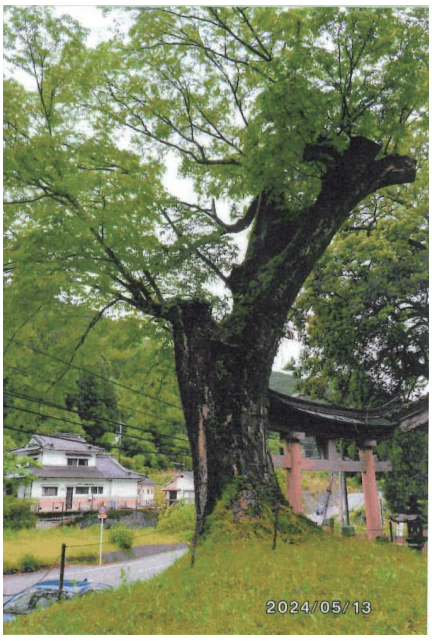


写真５　広瀬神社のケヤキ二株